

[野菜部門]

## 6. ジャンボピーマンの台木による青枯病抑制効果

[要約]

ピーマン用台木の「台助」、「台パワー」は、津山市（旧久米町）のジャンボピーマンに発生している青枯病の発病を抑制する。これらの台木でジャンボピーマンを接ぎ木栽培すると、自根と同じ形状の果実が収穫される。

[担当] 中山間農業研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543（病虫研究室）

[分類] 情報

---

[背景・ねらい]

ジャンボピーマンは平成 10 年から津山市（旧久米町）で特産品として導入されたが、近年では連作による青枯病の発生により生産が伸び悩んでいる。そこで、安定生産を図るため、抵抗性台木による青枯病の抑制効果及び接ぎ木栽培における適応性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 青枯病の多発生条件下では、「ベルマサリ」の発病は多いが、「台パワー」の発病は少なく、「台助」は発病がほとんどみられない（表 1）。
2. これらの台木でジャンボピーマンを接ぎ木栽培すると、自根とほぼ同じ形状の果実が収穫される（図 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 台木の収量に及ぼす影響については、検討していない。
2. 「台助」は一般販売されており、「台パワー」は数年後に販売予定である。

[具体的データ]

表1 ジャンボピーマンでの青枯病に対する台木の品種間差 (2009、津山市)

試験区 <sup>z</sup>	区制	調査株数	発病株率(%)		発病度 <sup>y</sup>	
			9/3	8/11	9/3	8/11
台パワー	区	5	20	0	15	0
	区	5	0	0	0	0
	区	5	20	5	15	0
	平均	5	13	2	10	0
台助	区	5	0	0	0	0
	区	5	0	0	0	0
	区	5	0	0	0	0
	平均	5	0	0	0	0
ベルマサリ	区	4	100	65	94	0
自根	区	5	100	70	90	0

<sup>z</sup> 定植日：台パワー、台助；6月16日、自根；6月8日、ベルマサリ；5月18日

<sup>y</sup> 発病度：[(発病指数×各発病指数の株数)/(4×調査株数)]×100、  
 発病指数：0；無発病、1；下葉または茎頂に萎れ、2；葉の1/2以上に萎れ、  
 3；株全体が萎れ、4；枯死



図1 ジャンボピーマンの果実の形状 (左：台パワー、中央：台助、右：自根)

[その他]

研究課題名：ジャンボピーマンの安定生産のための台木選定

予算区分：県単

研究期間：2009年度

研究担当者：松岡静江

関連情報等：平成19年度 野菜茶業研究成果情報「疫病、青枯病、PMMoV 複合抵抗性台木用トウガラシ新品種「台パワー」(旧系統名トウガラシ安濃4号)」

(<http://www.naro.affrc.go.jp/top/seika/2007/05/vegetea/vegetea07-01.html>)